享受

a2200530　山中早苗

自然の恩恵を受けて生きている自分をテーマにした。

制作意図

　テーマを決めるきっかけとなったのが昨年の8月27日に所属しているパラグライダーサークルで大会遠征に行ったときのことである。自分が飛行中、グライダーが20mほどの杉の一番高い木にひっかかって宙吊り状態になり死ぬ思いをしたのである。自然を恐いと思ったけど、それでも生きていることを実感している。この経験から自然の恩恵を受けて生きている自分をテーマにした。

デザインコンセプト

　この経験から一つのストーリーを思い浮かべた。空から落ちてボロボロの羽になり、もう自由に空を飛べなくなった。空を飛ぶ役目を失った羽ではどう生きていけば良いか自分を見失う。しかし、地に足をつけ、そのボロボロの羽を羽ばたかせて風を感じ、朝から夕日になるまでずっと空を眺めることができる。ボロボロになっても生きていることを象徴付けるような羽を、ここでは自由に造形できるオブジェで表現することにした。

空、風、太陽、地
自然の恩恵

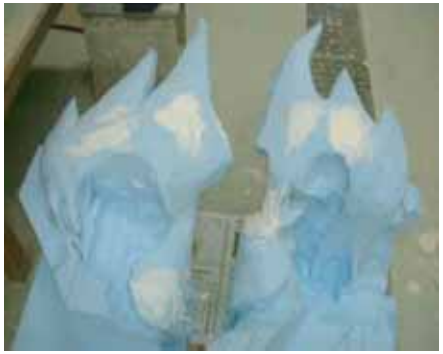
自分＝
ボロボロの羽

工程

スタイロフォーム切り出し,石膏で穴埋め
布張り（左右７枚）、布目揃え、布目擦り
　→表３枚布張り終了後、スタイロ抜き
切粉付け、切粉研ぎ
羽の補強で木削り出し
台座削り出し
下地付け、下地研ぎ
下塗り（黒素黒目×２）
中塗り（黒呂色×２）
蒔絵（乾漆粉）
台座削り出し、はめ込み

2006年度 卒業研究ゼミ発表要旨集

模型



スタイロ切り出し、石膏で穴埋め

羽の補強、木削り出し

布張り

考察

　羽の形に切り出してから、自分の納得のいかない形と大きさだったので、作り直した時は焦りの気持ちでいっぱいだった。また、スタイロフォームで羽の形に切り出した時に深くえぐった溝を石膏で埋めたり、麻布の厚みだけでは羽の上部が支えられないので下部の膨らみに合わせて木を削り出しはめこむことにした。その時、羽の形に合わせて削る作業が非常に難しかった。また、羽を自立させるための台座に羽をはめ込むには中塗りまで羽が仕上がっていないとできなかったので、また焦った。しかしながら、妥協せずに創り続けることがこれを創りたいんだという、自分の中にある核心を確かめるいいきっかけであると思われる。